

# プラタナスの幹の太さに 半世紀の時の流れを実感して

塚本 淳逸 旧制十二期

平成三年は、われわれ旧制十二期生が母校能代中学を、昭和十六年三月に卒業して以来、五十周年に当たる年だった。過般、在郷の学友幹事の行き届いた配慮により、盛大なクラス会を催すことができた。

十月五日 土曜日 午後四時

クラス会総会に先立ち、能代市萩ノ台、白龍寺に於いて、恩師・学友物故者二八名の慰霊祭が行われた。学友花下哲夫住職の心にしみる読経と、幹事長岡幸作君が切々と胸に迫る追悼の辞を述べ、参列者一同、在りし日の恩師・学友を偲び、冥福を祈った。

同日 午後五時

会場を柳町ブラザ都に移し、総会を開催する。幹事西村全蔵君の挨拶に続いて、宮地昭君の乾杯の音頭により、懇親会に入る。

戦中戦後の混乱と激動の時代に、それぞれ的人生を歩み続けて来た私どもは、卒業以来五十年ぶりに、やっと再会を果たし、その喜びを分かち合うことができたのである。

追憶、懐旧談は尽きることなく、飲むほどに酔うほどに宴益々盛り上がり、夜のふけるのも忘れ、ついには市内ネオン街にまで繰り出して二次会、三次会を重ね、再会の喜びに浸った。

翌六日 日曜日 午前十時 ブラザ都集合

同社社長鈴木音安君の好意によるマイクロボスの提供があり、学友肩を並べて同乗、能代市内をくまなく見学する。新装なった向能代の諸施設・米代橋・能代港の変貌に一驚し、また能代高校新校舎の広大さに、あらためて母校の発展を実感した。そして旧中学校跡の文化会館訪問では、校庭跡のかすかな面影に、当時の思い出が急によみがえってきて、プラタナスの幹の太さにしみじみと五十年の年輪を感じながらもタイムカプセルで呼び戻された感慨に打たれた。正午、ブラザ都で昼食会。午後二時、互いの健康を祈り、固く手を握り再会を約し、別れを惜しみつつ散会した。



○出席者氏名○ 西村全蔵 鈴木音安 原田竹千代(以上野球部) 平泉 修 小笠原清重(以上柔道部) 長岡幸作 平沢恭次(以上体操部) 花下哲夫 境 桂樹(以上剣道部) 瀬川長次郎 渡部武治郎(以上陸上部) 宮地 昭(庭球部) 泉 勇 塚本淳逸(以上排球部) 金沢武雄 成田 博 保坂 昇(以上園芸部) 相庭 等 平塚國雄(その他) 《敬称略》



## 六十七歳に想ふ

勝永金一 旧制十三期

私は小さい頃、いはゆるおばあちゃんコだった。そのおばあちゃんが亡くなったのが六十九歳。私は今六十七歳であり、そのおばあちゃんの年にそろそろ並びさうになったかと思ふと、何か啞然とした気持ちになる。

旧制十三期生の同輩ももう六十七歳、みな第二の人生、悠々自適の日々を送っているものと思ひながら過ごしている。さういふ矢先、同輩の訃報に接するのは、まさに青天の霹靂、愕然として身の起き所を知らないのである。一昨年、佐藤寛君の訃報を知らされた。四月、入院わづか二週間の急死であつた。同級生の死は、実に言ひやうもなく身にこたへる。

在京十三期会は、昨年七月十九日佐藤君を偲び、東京駅前の一いつみやに集まり、故人の在り日を語り合ひ、寄せ書きなどをして一夕を過ごさうといふことになつた。ここは例年の在京十三期会の集合場所。しかし、もともと八、九人の同期生である。一人でも減るのは実に寂しい。集まれば、年を忘れ、血氣盛んな頃の話題に花咲かせ、若かりし日に逆戻りした気分になつて家路につくのが、年一回程度の在京十三期会である。今年はずいひとりも欠けることなく、元氣な顔を寄せ合ひたいものである。

昨年の出席者氏名……安井哲彦、千葉胤時、三浦友喜、工藤文一郎、鎌田義雄、石山榮一、腰山光治、勝永金一 《敬称略》

## ふりむけばはや還暦

伊藤 康隆 新制三期

能代高校第三期生（通算二期生）卒業四十周年記念同期会が、昨年八月十七日、柳町プラザで開催され、同期生六七名が参集し、五人の恩師に足をお運び頂いた。

私たちは、昭和二十年四月に現在の能代市役所の所にあつた、旧淳城第一小学校の校舎に入學した。というのも、前年の二月に樽子山の校舎が全焼の憂き目にあつていたからである。校舎がどうであれ、秋田県立能代中学校に入學できた喜びは、今でも何ものにも代えがたい思い出として残っている。

しかし、その喜びも束の間、その年の八月に日本の敗戦となり、戦後の混乱期に入つたが、二三年三月十日に再建なつた新校舎に移転するまでの約三年間、その古い校舎で学んだ（勤勞奉仕し、遊んだ？）のだった。

終戦の混乱期、私たちにはいろいろな思い出がある。週五日授業制、サマータム制、新学制実施による民主主義教育など、ミドルティーンたちには、何とも目まぐるしい体験だった。ともあれ、二三年四月秋田県立能代南高校生となり、高校生として卒業することができた。そのような中学・高校の六年間をふと振り返るとき、気持ちはまだまだ若く、何につけてもこれから磨きをかけ、ゆつくりと時間をかけてポチポチ完成をと考えていた自分たちが、なんと日ならずして、還暦を迎えようとしていることに気づき、あらためて驚くやら、氣恥ずかしげに顔を見交わすやらの一日であつた。

## 最後はお手てつないで

杉崎 孝雄 新制八期

「同期会 焼けばつくいに 火はつかず」。今日までずっと火のつきっぱなしの島豊彦・節子夫妻は別として、我々にとつて同期の北高生は所詮高嶺の花とは思いつつ、新制七期能代高校・北高校合同同期会とあれば気もそろ、何はおいでも行かねばなるまいと、昨年十月十八日午後六時、グラントヒル市ヶ谷会館に駆けつけた同期生十五名、北高側出席者二十名と親しく青春時代にタイムスリップする運びとなつた。

私と同様（と言っても、私と違って彼は落第したわけではないが）卒業を同じくできなかった、那須秋男航空自衛隊空將の肝煎りによる豪華な会場もさることながら、何よりも感涙に咽んだ（なに、ちよつとオーバーだつて？）まあの際勘弁してヨ）のが、彼女たち持ち込みの手作りガッコ。これを漬物という、久方ぶりのふるさとの味わいだつた。

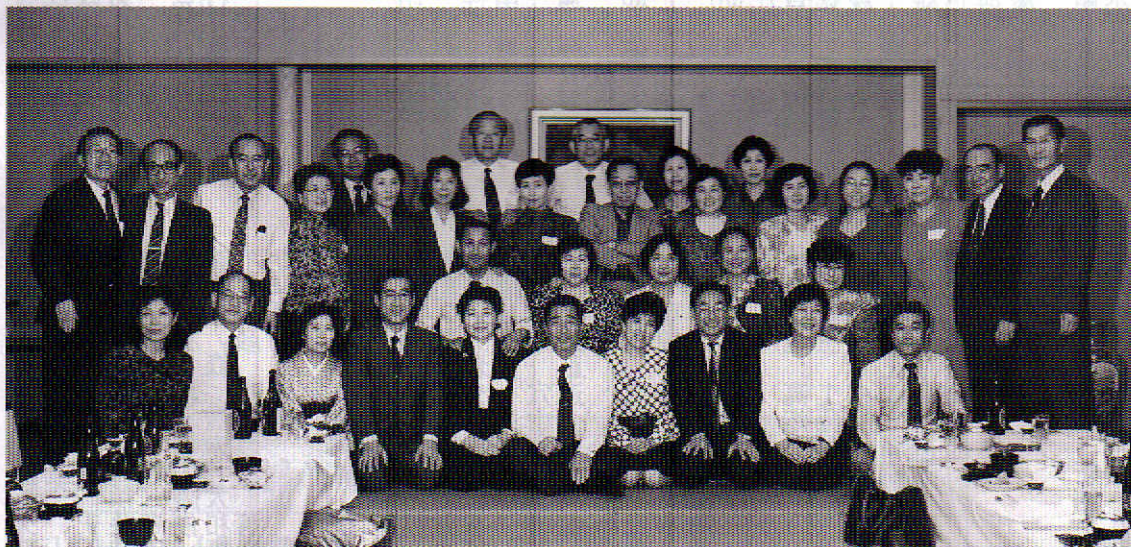
これが合同同期会としては二度目。なにかと理由をつけて古い顔を寄せ集めたくなるのは、老化現象の始まりではなからうか、と多少の不安はちらつくものの「青春やよし」と、近々第三回の開催を誓い、両校校歌の斉唱のあと、男女交互にお手てつないで「線路はつづくよ、どこまでも」を合唱しながらのお開きだった。そろそろ初孫の話に目尻を下げる人もいた。高校からさらにさかのぼる小・中学時代の懐旧談も出た。しかし、いつまでも「ふるさと会飾る錦の ない集い」にはしないよう、一同発奮して、今後益々頑張りたいものである。





○出席者○(前列左より最後列右へ)阿部毅 山王丸周平 柴田隼先生 山崎富之助先生 鎌田宏先生 高橋直三先生 中村史朗先生 関根州二 伊藤康孝 塩谷啓一 続隆 秋林祥三 佐藤篤朗 原田金雄 大塚新平 桐越勇作 浜野雄吉 渡辺利宏 草替進 舘岡則彦 永井富治 佐藤幸雄 中川憲二 田中久夫 加賀谷照雄 浪岡隆一 高橋昭雄 大山茂 港慶太郎 齊藤正 菊池俊男 港宣郎 三国正元 野口久幸 山田芳男 木村祐治 藤田達 池田卓也 石井秀之 茂林茂 納谷良二 菊地宏文 竹内京一 八杉和男 保坂隆司 森田清 竹村俊男 本庄文三 佐藤規夫 齊藤徳治 藤田裕 平川淳 谷内成治 大塚俊二 高橋稔 杉淵喬 平田恭彦 戸嶋富雄 雄鹿春勝 石井貞康 佐藤幹雄 石井二郎 工藤永治 信太吉右エ門 瀬川和夫 藤田和夫 平野良夫 北川満彦 佐藤市之助 田中三夫 吉成崇 佐藤重雄 《敬称略》

第2回能代高 北高校合同同期会 平成3年10月18日 於 グランドヒル市谷会館



○出席者○ 竹内栄子 畠 節子 池内愛子 知場幹子 小山田栄子 高橋佳代子 熊谷瑠利子 菅原かね 倉橋昭子 菊池悦子 高槻照子 大塚志保子 島宮チエ 竹沢トシ子 佐良土桂子 梅沢由利子 長谷川比奈 中島悦子 高橋暉美子 田村瑠子(以上北高OG) 秋林哲也 岡部忠 落合士郎 小貫 実 北島 茂 京敬之介 栗原俊一 小山哲道 民谷恒二 納谷六郎 畠 豊彦 平川明三郎 港 治 那須秋男 杉崎孝雄 《敬称略》



東京同窓会年会費納入者名簿(敬称略)  
平成三年十二月二十五日現在

旧制一期 腰山日代治 藤田成孝

二期 並木康三 淡路千代治

三期 板倉創造

四期 近藤三郎 後藤典一 栗生沢實 高垣重雄 高田忠夫 藤田成宜 三浦左武郎

七期 石山栄蔵

八期 大山芳雄 高原英夫

九期 高橋正太郎 佐々木博 中田友也 早崎敬治

十期 淡路輝一

十一期 安濃五平 木内 亨 小林健二郎 住吉忠三 清水栄三

十二期 青木十三夫 泉 勇 今 久男 奈良善四郎 平泉 修

十三期 打矢章一 勝永金一 工藤文一郎 千葉胤時 安井哲彦

十四期 石山栄一 鈴木鋺三郎 高橋隆雄 宮原茂悦 村木良一

十五期 草野英幸 鈴木喜雄 村田 守 森田良二

十六期 伊勢隆次 近藤 誠 熊谷洋三 中嶋信雄

十七期 石川浩之 岩森榮助 梅田恭三 川村幸信

十八期 仙台忠正 高橋義三 嶋仁也 茂呂定広

伊藤利兵衛 潮田 巖 加茂谷宏一 菊地栄一 埴谷昭二郎 高畑政宏 森田繁雄

十九期 伊藤忠夫 加藤 武 日下部道夫 小林肇 佐藤達郎 清水慶蔵 杉崎聰男 千葉孝夫 古内 保 八木喜徳郎 吉方盛恭

二十期 坂本逸郎 東海林毅 高島 隆 田中巖

大和 好

新制一期 五十嵐嘉久蔵 金子隆太郎

二期 荒川浩二 小野 喬 金谷芳郎 河田俊

三期

彦 佐藤真一 塩谷隆二 民谷慎一

伊藤康孝 江坂昭夫 小野 茂 雄鹿春勝 柏木祐一 菊地弘吾 信太吉右工門

谷藤義郎 森田 清 八杉和男 山田隆理 山谷正勝

四期 石戸忠五郎 伊藤久義 齊藤寛敦 田畑久雄 塚本忠志 土井啓有 村井克昌

伊藤和夫 大倉太助 門脇治義 設楽義雄

清水良二 鈴木恪悦 鈴木 博 成田憲司

五期 細田了平三 登 宮腰孝一 八杉弘行

越後陽一 門脇昭栄 金丸 正 金子勝信

六期 河合雅子 木村信逸 小山黎子 金野哲夫

佐藤正名 田久保光一 塚本昭次郎 豊田 誠 中島正美 畑江道弘 藤岡寛子

七期 栗原俊一 佐々木胤麿 須藤祥夫 高田嘉子 民谷恒二 納谷六郎 嶋 豊彦

八期 平川明三郎

岩見尚夫 池内広之 板倉富彌 今立甲矢雄 岩村庄一郎 長内明德 京 敬一

北村祐三 近藤勇夫 斉藤史郎 佐々木高博 佐々木弘高 佐藤五郎 塩山元久

神馬清史 杉崎孝雄 杉本次門 豊沢充美

九期 嶋山信孝 馬場ノリ 原田幸朗 原田力次 平川国一 堀 良三 本庄敬雄 松橋重美 宮腰英彌 八柳昭義 吉井源太郎

石岡忠治 加賀義介 金沢 稔 工藤嘉明 工藤 豊 小玉 潔 斉藤秀夫 七戸節雄 田村紀允 田中郁三 桧森 寛

十期 宮腰香見 山口富秋 若松正雄

越後政明 雄鹿豊彦 工藤統也 工藤哲美 柴田 武 須田正巳 東海林郁三

古内 仰 松島 茂 松野 肅 三浦義輝 水木初彦 宮腰達朗

十一期 赤塚修三 赤塚鉄男 石川正順 太田勝治 笹木広澄 清水武久 鈴木元紀 嶋

辰宏 松岡興紀 港記久郎 宮腰興紀

宮腰瑞夫

石田邦明 小島七イ 千田浩一

大倉報三 小林武廣 須藤靖夫 布川隆治

磯部 博 加藤 昭 高橋邦治 高田政勝 高谷 誠 田中勝俊 濱谷裕一 宮腰克也 森 喬夫 大和東悦

小林勝彦 齊藤忠生 清野勝子 武田功 播磨谷謙哉 嶋山 隆

岸部達行 平澤正典 平澤徳子

九嶋宏樹 小林博通 横田真理子

十八期 大山金四郎 工藤正樹 小林公雄 嶋津一 齊 藤田辰夫

十九期 浅野 讓 今野廣隆 井上道晴 小野津世子 大倉久史 加茂谷純一 小林雅夫

高橋ヒサ子 武田 正

二十期 赤塚 剛 穴山和義 市川正敏 菊地正巳 金野正道 田森英健 成田正廣 袴田忠夫

大高正典 大塚 進 工藤長昭 金野峻明 菅原 涉 住吉修平 関 隆男 武田信雄 田村 猛 直嶋博明

加賀谷良博 熊澤朝子 三戸和幸 柴田正信

小河範也 高畑 仁

菊池雄三 工藤長彦

大屋有司 小沢茂則 小林 彰 佐藤義宏 須藤正喜 高橋敦子 渡辺博栄

伊藤幸彦 伊藤裕子 佐藤 伸 佐保田朋子 宮城伸一郎

二六期 榎原正彦 港 基樹

二七期 泉富士男

二八期 鈴木裕美子

二九期 鈴木裕美子

旧制小計 七九名 新制小計 二二六名

合計 二九五名 入金額 八八四、〇〇〇円



## 生徒状況

### (1) 在 学 生 徒 (普通科のみ)

学年	男子	女子	合計	出身校	能代市	山本郡	北秋田郡	南秋田郡	他県内	青森県	他県外
1	225	104	329		190	93	31	9	4	2	0
2	227	103	330		175	117	23	5	4	6	0
3	225	102	327		192	96	21	6	6	4	2
合計	677	309	986		557	306	75	20	14	12	2

### (2) 部・同好会加入状況 (加入率60%)

硬野球	軟野球	軟庭球(男)	軟庭球(女)	サッカー	登山	バスケット	バレー	卓球	柔道	剣道
45	28	16	17	34	8	20	20	7	14	14
陸上競	水泳	空手道	吹奏楽	演劇	文芸	新聞	写真	美術	体操	応援
30	16	24	47	20	15	5	5	8	8	23
放送	茶道	フォーク	INC	科学	無線	アニメ	歴史	映画	囲碁・将棋	
15	27	8	8	10	6	16	19	40	5	

## 卒業生状況 (卒業後の進路)

就職の( )内は県内就職数

年度	卒業数	国公大(合格)	私立大(合格)	国公短大	私立短大	専門各種	小計	就職	その他
61	366	59(77)	101(178)	7	5	36	208	58(25)	100
62	385	75(105)	92(132)	6	11	32	216	47(21)	122
63	324	44(65)	84(129)	6	8	37	179	47(26)	98
元	327	55(77)	95(133)	8	12	38	208	49(17)	70
2	328	64(90)	91(160)	8	10	25	198	49(26)	80

## 教職員組織

校長	教頭	教諭	実習助手	養護教諭	事務職員	技師	小計	臨時講師	臨時職員	校医	合計
1	1	45	1	1	4	2	55	6	4	5	70

\*数値は平成3年5月1日現在



	ック後援会が記念碑を校庭に 建立	昭和50.12.16	柔剣道場完成
昭和28. 4. 1	秋田県立能代高等学校と改称	// 51.10.28	硬式野球場完成
// 28	体操部インターハイ優勝、梶 原義美個人優勝	// 52	硬式野球部甲子園出場
// 30	体操部インターハイ優勝	// 53	硬式野球部甲子園出場
// 31	体操部インターハイ優勝、平 川文雄個人優勝。バレー部イ ンターハイ優勝。体操部国体 優勝	// 53.11.16	テニスコート完成
// 32	体操部インターハイ優勝、辻 健一個人優勝。バレー部イン ターハイ準優勝。体操部国体 優勝。バレー部国体第3位	// 54. 2	軟式野球場整地並びにバック ネット完成
// 33	体操部インターハイ優勝、建 部盛蔵個人優勝	// 54. 8.28	軟式野球部インターハイ準優 勝
// 34	体操部インターハイ優勝	// 54.12.19	第二体育館、渡り廊下、部室 完成
// 35	体操部インターハイ優勝	// 55. 5.23	吹奏楽器整備
// 36	体操部インターハイ優勝、小 野喬夫個人優勝。体操部国体 優勝	// 55.10.15	軟式野球部国体優勝
// 37	大山保夫インターハイ柔道第 3位	// 56. 2	校歌の掲額（旧制19期生小林 肇氏寄贈、旧制11期生山田顕 一氏揮毫）
// 38	硬式野球部甲子園出場。体操 部インターハイ優勝	// 57. 8.30	軟式野球部インターハイ優勝
// 39. 4. 1	二ツ井分校秋田県立二ツ井高 等学校となる	// 58. 5.26	日本海中部地震により校舎の 一部損壊
// 39	硬式野球部国体出場	// 58	軟式野球部国体第3位
// 40. 5. 1	創立40周年記念事業として学 校ならびに生徒昇降口までの 通勤・通学路の舗装工事完成	// 59	軟式野球部国体第3位。館岡 潤インターハイ体操床第2位
// 40. 9.22	創立40周年記念式典挙行	// 60. 6.10	創立60周年記念事業・黒松植 樹
// 41	体操部インターハイ準優勝	// 60	軟式野球部インターハイ第3 位。館岡潤インターハイ体操 床第3位
// 42	体操部インターハイ準優勝	// 60.10. 3	校訓の掲額（旧制15期生参議 院議員佐々木満氏揮毫）、創 立60周年記念式典挙行
// 43	杉原正規インターハイ陸上競 技・走高跳第3位	// 61. 1.17	創立60周年記念事業・体育館 放送設備全面更新
// 45.11. 5	能代高校校舎改築期成同盟会 設立	// 61. 5. 6	創立60周年記念事業・生徒用 自転車置場舗装
// 47.11.21	新校舎建設第1期工事着工	// 61. 5.17	創立60周年記念事業・黒松ほ か植樹
// 48. 8.31	新校舎第1期工事（普通教室 棟）完成	// 62. 5.15	昭和61年度秋田県学校関係緑 化コンクール学校環境緑化の 部県知事賞受賞
// 49. 7.30	新校舎第2期工事（特別教室 及び管理棟）完成	平成元. 4. 1	65分授業の実施
// 49	軟式野球部国体第3位	//元	体操部、軟式野球部、空手道 部インターハイ出場。体操部、 水泳部国体出場
// 49.11. 1	新校舎で授業開始。体育館完 成	//元.11.17	雨天体育館完成
// 50. 3	セミナーハウス・陸上競技場 完成	// 2.	体操部、陸上部、空手道部イ ンターハイ出場。体操部、陸 上部国体出場
// 50. 8	水泳プール完成		
// 50. 9.30	校門建立（同窓会寄付）		
// 50.10. 1	自在の像除幕（旧制19期生小 林肇氏寄付、新制11期生戸松 恭一氏制作）		
// 50.10. 3	校舎改築落成及び創立50周年 記念式典挙行		



## 学校概況

### 秋田県立能代高等学校

所在地 〒016-01 秋田県能代市字高埜2-1 TEL 0185-54-2230

学校創立 大正14年4月6日<卒業生総数 14,697名>

校地校舎 校地面積 91,711m<sup>2</sup>

校舎面積 11,431.19m<sup>2</sup>

管理棟, 教室棟, 大体育館, 小体育館, 格技場, 雨天体育館, プール, 部室棟, その他

### 教育計画

建学の精神 『一國文教ヲ以テ興リ, 一國文教ヲ以テ亡ブ』

校訓 『至誠力行』

- 教育目標
- 1 真理を追究する旺盛な精神力と広い視野に立った熱意とをもって、事に当たることのできる人間
  - 2 正義を愛し、責任を重んじ、自主的に行動できる人間
  - 3 自然に親しみ、人間を愛し、国際社会にも貢献できる協調性に富んだ、心身共に健康な人間

- 本年度目標
- 1 己を抑え、清く正しく、真心をもった生活をできるようにする。(克己誠実)
  - 2 強い進路目標を持ち、その達成に向かって、自ら求めて学習できるようにする。(自発学習)
  - 3 心と体を鍛え、本校の名声を高める部活動に積極的に励むようにする。(部活精励)

- 重点課題
- 1 実効ある65分授業の構築
  - 2 進路対策, 部活動対策の検討と具体的な展開
  - 3 教育環境の将来構想の策定と具現化

## 沿革概要

大正13.12.23	秋田県立能代中学校設立認可	昭和22. 1.30	能代中学再建同盟結成
〃 14. 4. 6	第1回入学式挙行(2学級, 秋田県工業講習所にて授業開始)	〃 22	体操部国体優勝, 小野喬個人優勝
〃 14.11.11	校舎を新築の体操場に移転	〃 23. 3.11	樽子山新校舎に移転(能代市追分町)
〃 15. 4. 1	父兄会創立	〃 23. 4. 1	新学制実施。秋田県立能代南高等学校と改称
〃 15. 5. 6	校旗制定	〃 23. 6. 1	定時制課程, 二ツ井・藤琴・八森・常盤分校付設
〃 15. 5.13	校舎を新築の本館に移転。	〃 23. 9.23	再建校舎落成式挙行。校歌・校章改定
〃 15. 9.16	校歌制定	〃 23	体操部第1回インターハイ優勝, 小野喬個人優勝。体操部国体優勝
〃 15. 9.23	校舎落成式挙行(以後開校記念日と定む)	〃 25	体操部インターハイ優勝
昭和 5. 4. 1	同窓会創立	〃 26. 4. 1	男女共学実施
〃 5.10.30	校訓制定	〃 26	体操部インターハイ優勝
〃 8	校章制定	〃 27	体操部インターハイ優勝, 鈴木恪悦個人優勝。体操部国体優勝
〃 12	明治神宮大会, 体操部優勝	〃 27.12. 5	卒業生鍋谷鉄巳, 小野喬両氏ヘルシンキオリンピック出場
〃 16. 4. 1	学級増加となり3学級募集		記念として, 秋田県オリンピ
〃 17	明治神宮大会体操, 中村史朗個人優勝		
〃 19. 2.15	柔道場, 銃器庫を残し校舎全焼。長根町仮校舎に移転		
〃 20. 4. 1	学級増加となり4学級募集		
〃 21	体操部第1回国体優勝, 鍋谷鉄巳個人優勝		



## 秋田県立能代高校東京同窓会会則

- 第1条 本会は秋田県立能代高等学校東京同窓会と称する。
- 第2条 本会は能代高等学校を卒業、又は在籍したことがあり、東京および東京近郊に居住する者は、全てその入会の資格を得るものとする。
- 第3条 本会は同窓生各位の親睦と相互の繁栄を図り、以て郷土の発展と母校の興隆に寄与するものとする。
- 第4条 本会は幹事を置く。但し、人数は制限しない。任期は定めない。
- 第5条 幹事の内より、会長1名・副会長若干名・会計若干名を置く。又、顧問を置くことができる。但し、任期は各々2年とし、留任は妨げない。
- 第6条 本会の運営に当たり、事務局を設ける。
- 第7条 本会の運営一切の事項については、幹事会に一任する。
- 第8条 本会は年1回総会を開催する。
- 第9条 本会運営費は、会員の納付した年会費、寄付金その他を以てこれに当てる。但し、年会費の金額に関しては、幹事会がこれを定めるものとする。
- 第10条 納付された運営費は返還しない。
- 第11条 本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり、9月末日を以て終わる。
- 附 則 本会則は昭和53年10月一部改正する。  
本会則は平成3年6月一部改正する。

### あ・と・が・き

みなさまの協力のおかげで、会報の発行もなんとかNo.5まで参りました。多用に取り紛れ編集に集中できず、みなさんに満足して頂けるものかどうか、自信がありません。回を重ねるにつれて、内容構成ともに少々マンネリ化しているのではないかと、反省しております。なにかいいアイデアがありましたら、教えてください。

さて、今号も昨年十月の10周年記念総会の会場の模様を中心に、ご報告することにいたしました。記念総会でもあり、例年以上に盛りだくさんの内容でした。高橋先輩の壇上に寝そべるほどの身振り手振りの混じった実演入りの講演は、大変熱のこもったもので、会場に深い感銘を与えてくれました。始めて招待の形で参加した新卒のフレッシュ・パースンたちも先輩たちの息吹に感動し、それなりの手ごたえを感じた様子でした。

レトロ趣味が今いちばんトレンドと言われて久しくなりますが、各地に「ふるさと会」や「同期会」が盛んなこともその一つの表れかもしれません。この度は、塚本・勝永・伊藤諸先輩から、写真や寄せ書きなどの資料とともに、それぞれ同期会の風景をお知らせ頂きましたので、今回は、これを紹介させてもらうことにいたしました。例年通り、郷里の各市町村からは「市町村便り」を始め、東京で行われた「ふるさと会」の模様など、貴重な資料をお寄せ頂いておりますが、残念ながら紙数の関係で、本年度は「ふるさと短信」を休ませて頂きます。今後とも、よろしくご協力のほどお願いいたします。